

今日のトピック 最近の指標から見る中国経済（2017年11月）

景気は緩やかに減速しつつも底堅さを維持しよう

ポイント1 固定資産投資は小幅減速

生産、消費もやや減速

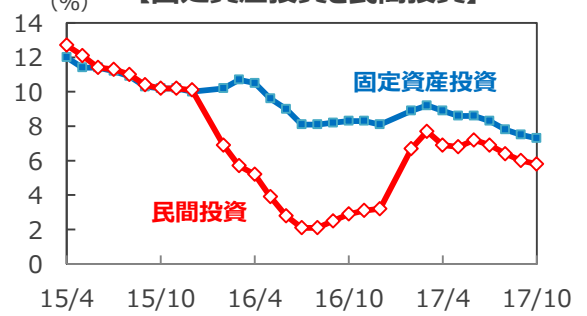
- 17年1～10月の固定資産投資は前年同期比+7.3%と、1～9月（同+7.5%）から伸び率が小幅に鈍化しました。民間投資がやや減速した一方、インフラ投資の伸びはほぼ横ばいでした。
- 10月の鉱工業生産は前年同月比+6.2%と、9月（同+6.6%）から伸び率が縮小しました。ただ、10月の営業日数が少なかったことを考慮すると、生産減少の度合いは大きくないとみられます。
- 10月の小売売上高も同+10.0%と9月（同+10.3%）から伸び率がやや鈍化しました。

ポイント2 生産者物価上昇率は高め

政府の生産抑制策も影響

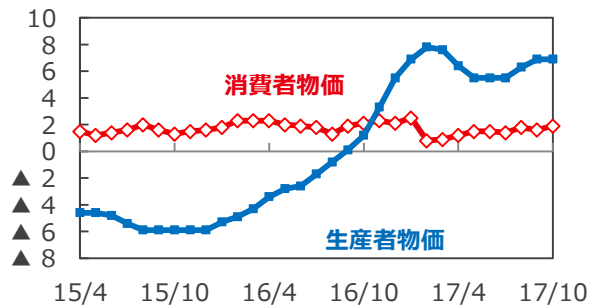
- 10月の生産者物価上昇率は前年同月比+6.9%と、市場予想（ブルームバーグ集計）の同+6.6%を上回り、高めとなった9月の水準から横ばいでした。
- 中国政府の環境保護のための生産抑制策もあり、生産者物価は上昇圧力がかなりやすい模様です。

【固定資産投資と民間投資】



(注) データは2015年4月～2017年10月、年初来累計の前年同期比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【消費者物価と生産者物価】



(注) データは2015年4月～2017年10月、前年同月比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 景気は緩やかに減速しつつも底堅く推移しよう

- 今月の主要経済指標によれば、固定資産投資、鉱工業生産、小売売上高がいずれも前月を下回るなど、中国景気が緩やかに減速している動きが示されました。今後も景気は緩やかに減速しつつも、中国政府の政策調整により比較的底堅く推移する見通しです。また、生産者物価上昇率の上振れは、価格面から企業業績の改善につながります。これは株式市場のサポート材料になりそうです。
- 中国政府は、米中首脳会談の成果として、金融市場の対外開放を発表しました。対象金融機関には証券、生保のほか銀行も含まれ、将来的には外国人投資家による全額出資が認められる計画です。ただし、対外開放の方向性は評価されるものの、外国人投資家の参入には様々な障害により時間がかかるとみられます。

ここも
チェック! 2017年10月27日 『チャイナ・セブン』と習近平総書記1強体制
2017年10月25日 上昇ペースの鈍化が続く『中国の住宅価格』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。